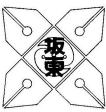


令和7年度

伊勢崎市立坂東小学校



学校通信

ばんどうたろう

坂東太郎



第 22号

令和7年11月18日(火)発行

校長 関根 崇史

【保護者の皆様へ】 交通事故から命を守る！～学校・家庭で取り組む安全対策

ここ最近、「赤信号なのに道路を横断している小学生を見た」「道いっぱいに広がって歩いている小学生がいて危なかった」「急な飛び出しをされてヒヤッとした」などなど、保護者や地域の方から連絡をいただくことが度々ありました。その都度、担任から注意喚起をしてもらっていますが、危険な行動がゼロになることはありません。幸いなことに、今年度になって大きな交通事故は起こっていませんが、いつ起こってもおかしくはない状況です。事故に遭ってから「もっと気をつけておけば良かった…」では手遅れです。

車は、大きな鉄の塊（かたまり）です。軽自動車ですら、重さ700kg以上あります。大人の体重の10倍を超える。スピードは、ゆっくり走っても簡単に時速50~60kmは出ます。先日行われた世界陸上での男子100m走の優勝タイムが9秒77でしたが、それでも時速37kmにしかなりません。つまり、私たちの身の回りには、大人の体重の10倍以上ある鉄の塊が、世界一の陸上選手よりもはるかに速いスピードで、数え切れないほどたくさん走り回っているのです。学校では、廊下や校庭で走っていた子供同士がぶつかってしまうことがあります。その程度でも、あたり方によっては大きなケガにつながります。走っている車とまともにぶつかってしまったら、生きていられることは奇跡なのです。

学校は「子供たちの命と安心安全を守り抜く」責任があります。苦しい思いをする子供が出てはいけませんし、ましてや誰一人として欠けることがあってはなりません。学校では引き続き、安全に関する指導を継続していくますが、それだけでは不十分です。家庭、そして地域が一緒になって、未来ある子供たちの命と安心安全を守っていくことが重要です。以下の点につきまして、ご家庭でも指導や意識をしていただけるとありがたいです。

1. 命を守る道路横断のしかた

○安全な場所を見つけて横断する。

信号がある場所が一番、次に横断歩道、その次が車の通りが少ない場所。

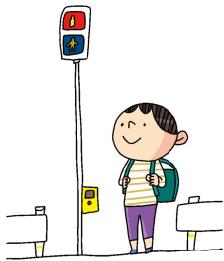
○「止まる・見る・待つ・確かめる」を徹底する。

止まる：道路を渡る前は、必ず止まる（一步手前で止まる）。

見る：右、左、そしてもう一度右をしっかり見る。車が止まっているかを確認する。

待つ：信号が変わってもすぐに飛び出さない。青でも車が来ていないか待つ。

確かめる：渡り始ても、車が来ていないか常に確認しながら渡る。



○手を挙げて渡る。

運転者に横断する意思をはっきり伝えるため、手を挙げて渡る習慣をつける。

○飛び出しは絶対禁止。

「たぶん大丈夫だろう」「急いでいるから」といった油断やあせりが事故につながる。

2. 命を守る道路の歩き方

○安全な場所を選んで歩く。

歩道がある場合には、必ず歩道の内側を歩く。

歩道がない場合には、右側通行で、できるだけ車から離れて端を歩く。

白い線（路側帯）がある場合には、その内側を歩く。



○ルールやマナーを守って歩く。

道路は歩行者だけのものではないので、横に広がって歩かない。

道路で遊んだり、走ったり、ふざけたりしない。また、道路脇で立ち止まって話し込んだりもしない。

3. ご家庭にお願いしたいこと

○通学路の「危険箇所」と一緒に確認する。

入学時だけでなく、定期的に子供と一緒に通学路を歩き、見通しの悪い交差点や危険な場所を子供目線で確認してください。

○大人が交通ルールの手本となる。

子供が見ている前で信号無視や横断禁止場所の横断をしないなど、大人が交通ルールを遵守する姿を見せることが最大の指導となります。